

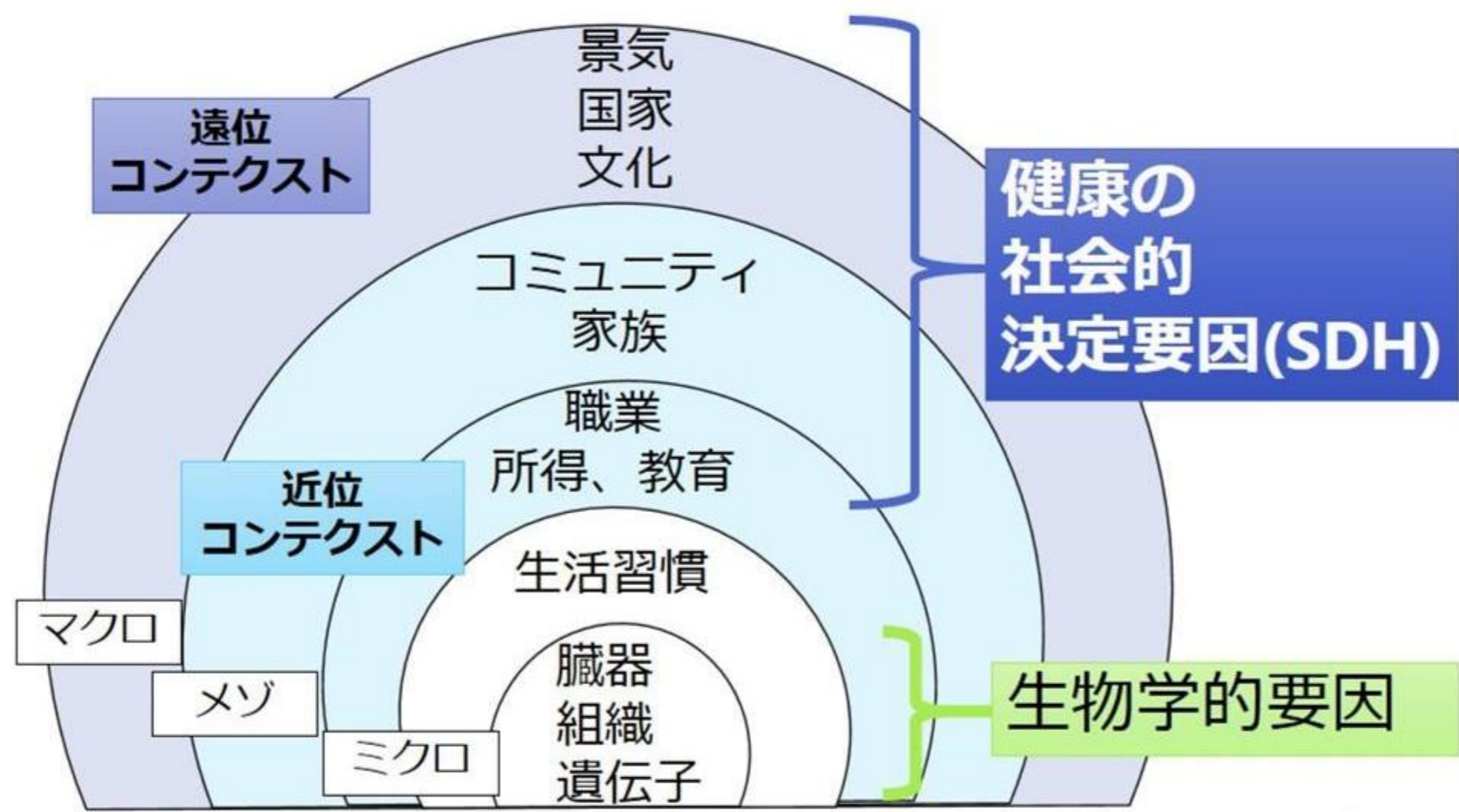
# 健康の社会的決定要因を臨床現場に実装する 社会的バイタルサイン (SVS) を用いた患者評価の手法

水本 潤希<sup>1</sup> 芦野 朱<sup>2</sup> 井村 春樹<sup>3</sup> 大矢 亮<sup>4</sup> 落合 甲太<sup>5</sup> 小松 真成<sup>6</sup> 佐藤 健太<sup>7</sup> 杉原 大輔<sup>8</sup> 鈴木 諭<sup>9</sup> 原田 侑典<sup>10</sup> 幌 沙小里<sup>11</sup>

1. 愛媛医療生活協同組合 愛媛生協病院 内科・家庭医療科
2. 医療生協さいたま さいたま総合診療医・家庭医センター
3. 京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野
4. 社会医療法人同仁会 耳原総合病院 救急総合診療科
5. 淀川勤労者厚生協会附属西淀病院 地域総合内科
6. 鹿児島医療生活協同組合 鹿児島生協病院 総合内科
7. 北海道勤労者医療協会 勤医協札幌病院 内科
8. 長野医療生活協同組合 長野中央病院
9. 利根保健生活協同組合 利根中央病院 総合診療科
10. 獨協医科大学病院 総合診療科
11. 北海道勤労者医療協会 勤医協苫小牧病院

## 本活動の背景

プライマリケアで健康の社会的決定要因 (SDH) を検討する重要性については、すでに多数の報告がある  
ただし、SDHはもともと社会疫学概念であり、そのままでは臨床現場で適用することが難しい  
主な問題点は2つ ①用語、概念が混乱している ②具体的な実践の方法論が確立されていない



日本プライマリ・ケア連合学会  
健康の社会的決定要因委員会公式facebookページより引用

患者個人を取り巻く  
健康の社会的決定要因を  
どのように評価し  
どのように改善するか?

臨床現場で患者個人に適用する  
評価・介入ツールの開発が必要

## 社会的バイタルサインの概念を援用した LIFE SUPPORTカンファレンスの開発

*Learning social frailty ensuring an  
upstream approach: rules and tactics*

### 社会的バイタルサイン (Social vital Signs: SVS) (堀毛清史)

「人間らしく生活している証」を示すもので  
「人間は **社会的存在** であり、その状況に関する **情報、兆候**」を意味する

社会生活を反映し、経時的に変化する項目 (SVS) として **HEALTHの6項目** を抽出  
SVSとライフコースとの相関を示すマトリックス (**アクションシート**) を開発  
患者の意向・価値観を根底に、実情や介入策を多職種で共有・探索する方法論を構築

### カンファレンス・実践を通じての感想 (抜粋)

- どこに問題があるのかを知ることで、「中腰で粘る」ことができるようになった
- 患者の情報をもち寄る際に多職種が共通言語で話すことができる

### HEALTHの6項目

- H**uman relations (家族関係や近所付き合い)
- E**mployment (仕事の内容や収入)
- A**dvanced ADL (趣味・活動・生きがい)
- L**iteracy/Learning (教育課程・入手可能な情報源)
- T**aking food, clothing, shelter (衣食住)
- H**ealth care systems (医療・介護・福祉サービス)

### LIFE SUPPORTカンファレンス レクチャー・ワークショップの様子



## 今後の展望

### 手法の 確立

- SVS各項目の妥当性評価
- 理論的裏づけの検証
- アウトカム評価

### 実践と 普及

- 様々な状況での有用性の検証
- 学生～ベテラン、多職種を含めた「使い勝手の良さ」の追求

参考文献  
 • Can Fam Physician 2017; 63: e476-82 (PMID: 29138172)  
 • J Am Board Fam Med 2017; 30: 418-27 (PMID: 28720624)  
 • "Review of social determinants and the health divide in the WHO European Region: final report" World Health Organization Regional Office for Europe  
 • "Best Advice Guide: Social Determinants of Health" The College of Family Physicians of Canada  
 • 北海道勤労者医療協会看護雑誌 介護と看護 2015; 41: 14-15

筆頭演者ならびに共同演者に  
開示すべきCOIはありません。